

我國の労働運動の是非は國情により世界各國の是非とは別異である、我國労働運動は明治二十七、八年頃に起り逐年盛くなり今日の主張である産業協力主義は日本獨特のものであり世界に誇り得るものだ、産業協力主義と労資協調主義とは異なる、労資協調主義は労資が主従の關係なりとの觀念の下に資本家に有利に出来て居る即ち資本家の奴隸たれとの協調論である、この横暴極まる労資協調論に對して労働者に依り反駁的に誕生したのが現在の産業協力論である、狡滑なる資本家はカルテル、トラストに依り労働者壓迫の手を緩めて居ないこの現状にある労働者は固くスクラムを組んで飢くなき資本家の搾取に對抗せよ。

○ セメント労働組合長

三木治郎

世の變遷は資本家をして或る程度労働者の立場を考へさせて

法人協調會福岡出張所